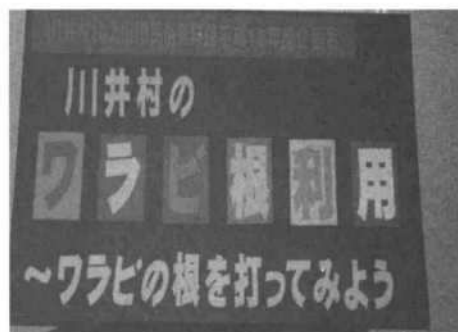


企画展 (10月28日～12月24日)



今年度の民俗資料館の企画展では、昔行われていた方法で実際にワラビ根（地下茎）を打つ体験コーナーを設けました。

澱粉をとるところまではできませんでしたが、体験した子どもたちは、大変な苦勞があったんだということを実感していたようです。

企画展の感想（アンケート結果より）

10代～80代まで20人の方にご協力していただきました。その内6人の方がワラビ根から澱粉がとれることを知っていましたが、実際の方法などをみてびっくりしたようです。

感想

- 「かで飯やトチの実のあく抜き法について紹介する企画展も開催してほしい」
- 「初めて根を打つ体験して、昔の人はすごいと思った」
- 「打ってみて、ワラビの根が白くてびっくりした」



記録作業に御協力下さい!!

民俗資料館では、昔ながらの方法や用具で行なっている暮らしや仕事のさまざまな場面を、ビデオや写真による映像記録に残したいと考えています。

今年度は、事前に連絡があったものについて記録させていただきました。その一部を紹介します。

13年度からもどんどん取材し、年2回発行の資料館だよりで紹介していきます。各地区老人クラブなどの団体はもちろん、個人の方も是非ご連絡下さい。

【民俗資料館 TEL76-2111 内線84】

「昔はどのようにやったものだ」という再現も大歓迎です。資料館にある資料や、自宅に残っていた昔の用具を使って「むしろ織り」と「炭すご編み」を再現していただきます。



「むしろ織り」(小国地区 高屋喜多男氏)



「炭すご編み」(小国地区 道又 キヨ氏)

各地区公民館の寿大学では、今年度の活動の一つとして、今ではほとんど行われなくなった伝統的な食文化についての再現を行いました。

川井地区「ひえめし」

ぼろぼろとこぼれるヒエの飯粒を、山菜のミズのとろろでとろみをつけて、こぼさないようにかっこみます。



江繁地区「ほどだんご」

外につるして凍らせた小粒のじゃがいもを白などでつけて粉にし、熱湯で練ってだんごにして茹であげたものをあずきやおつゆでいただきます。



「こんこんけえば」(小国地区 湯澤 武氏宅)

田植えのときにふるまったもの。ホオノキの葉の良い香りがします。



川井村の文化財～「早坂一里塚」

旧宮古街道、現在の川井中学校の裏山の尾根沿いにあります。直径8m、高さ3mほどの塚が、旧街道をはさんで1基づつ築かれています。旧宮古街道は険しい道のりでした。そのため旅人もこの一里塚を頼りにして歩いたことでしょう。

記録によりますと村内にはこの他6箇所には塚が築かれていましたが、今は残っていません。盛岡一宮古間でも現存しているのは、盛岡市内の5基(盛岡市指定文化財)とこの早坂一里塚のみです。

旧宮古街道の歴史を語り継ぐ貴重な文化財として、末永く後世に残したいものです。

(川井村文化財調査委員長 芳門留次郎)

▲「早坂一里塚」



～資料を探しています～

前回の資料館だより(No.6)でも呼びかけた通り、資料館に収蔵している資料の中で、衣類(昔の仕事着、普段着)の資料が少ない状況です。人が身につけていた、一番身近な衣類は、昔を伝える大変貴重な資料です。ご自宅に残してある方は、どんな状態のものでもかまいませんので、資料館までご一報下さい。御協力をお願いいたします。

【民俗資料館 TEL76-2111 内線84】

*地区老人クラブでは……

箱石・鈴久名老人クラブ「ソバ打ち」と「きみだんご」

昔ながらの「まどり」や「唐箕」でソバを脱穀しました。

きみだんご作りでは、子どもたちも参加して、足で踏む「かる臼」についてキミを粉にしました。



湯沢老人クラブ

昔の「やどこ」の時に山の神に感謝する行事が再現されました。



皆さん、昔をなつかしみながらいろいろお話を聞かせて下さいました。今ではあまり見られなくなったからこそ、記録を残して後世に伝えたいものですね。

資料館来館者数 (4月~2月)

毎年の傾向ですが、秋の行楽シーズンを過ぎると団体客、一般客ともに来館者がめっきり減少します。

	個人					団体					合計
	一般	学生	児童	公、免	合計	一般	学生	児童	公、免	合計	
4月	55	0	5	6	66	0	0	0	0	0	66
5月	108	5	9	12	134	24	0	0	33	57	191
6月	70	0	0	18	88	54	39	0	15	108	196
7月	76	5	1	17	99	59	0	0	109	168	267
8月	143	7	32	15	197	19	0	0	100	119	316
9月	95	3	2	15	115	89	0	0	23	112	227
10月	103	0	3	15	121	12	0	0	31	43	164
11月	72	0	3	68	143	40	0	0	57	97	240
12月	45	0	1	5	51	0	0	0	3	3	54
1月	15	1	2	11	29	0	0	0	0	0	29
2月	21	1	1	0	23	0	0	0	15	15	38
合計	803	22	59	182	1066	297	39	0	386	722	1788

平成12年度来館者数 (2月末現在単位:人)

3月に入ってから川井西小、刈屋小(新里村)の3年生の皆さんが社会科の授業の一貫で見学に来てくれました。今後、体験コーナーを充実させたり、資料を実際に使っていた高齢者の方々に解説をしていただくなど、いつでも勉強にきてもらえる資料館にしていく予定です。

新里村刈屋小学校
← 3年生のみなさん (3月9日)



資料館ノートから

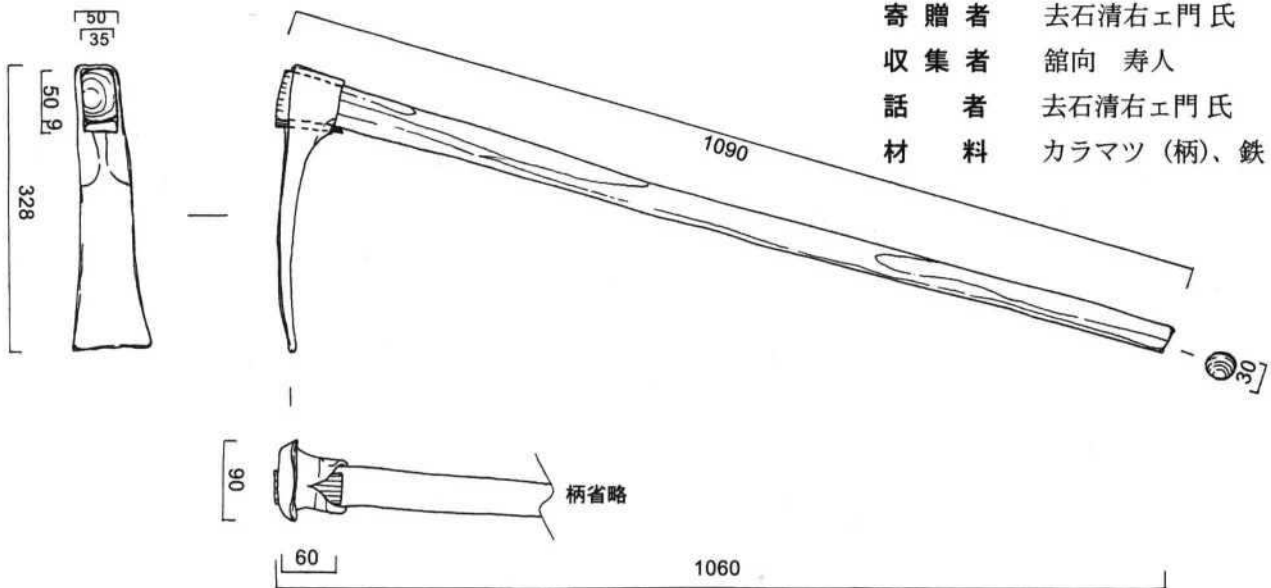
来館者よりのメッセージを紹介します。

- 「山形から来ました。3歳児連れてでしたが、幸い他のお客さんもなく、ゆっくり拝見できました。息子は『山の仕事』のビデオが気に入ったようです。」
- 「ここに来て、昔の暮らしの大変さがよくわかりました。」(小学生)
- 「昔を思い出してなつかしく見学しました。」

企画展で展示した資料の紹介をします。

資料紹介8 作図者 安藤稀環子

伝票番号 1693
 資料呼び名 ワラビ掘り
 寄贈者 去石清右エ門氏
 収集者 館向 寿人
 話者 去石清右エ門氏
 材料 カラマツ (柄)、鉄



製作方法 金属部分は盛岡で購入。柄のカラマツは2月～3月に伐る。刃と柄材の間に楔を打って、刃が動かないように固定した。

使用者 話者の父親の代まで

使用年代 1926 (昭和26) 年以前

使用地 ワラビが生える山間地

使用方法 ワラビの根はかなり深くのびているために、このワラビの専用の鋏を使って掘り出した。ワラビ掘り専用のため、他に使い道はない。

備考 掘り出した根は家に持ち帰り、よく洗い、硬い木で作った「根もち台」という厚さ20cm、100cm四方の専用の台の上に置き、槌で打ち、「いものはな」と呼ばれる澱粉をとった。この澱粉で餅を作り、きな粉をかけるなどして食べた。

しかしこれは凶作の時など食べものが不足したときのことで、話者である去石さん本人は実際に食べたことはない。

聞き取り調査年月日 1998年7月25日

資料紹介9 作図者 野沢 裕美

伝票番号 7851

資料呼び名 返しへら

寄贈者 高屋喜多男氏

収集者 高屋喜多男

話者 高屋喜多男氏

製作年代 1945 (昭和20) 年頃

使用者 話者、話者の家族

使用年代 1945 (昭和20) 年頃

使用方法 ワラビの根から澱粉をとるために根を平らな台の上で槌で打って潰す作業をする。その時根をひっくり返すのに使用した。例えば餅つきの時に、餅を返す手のような役割をした。叩く人と、返す人とは別だった。

備考 話者が経験したのは1945年の冷害の年のみ。この資料は間に合わせに、その場で家族の誰かが作ったもの。

